

文化芸術の国際交流

能楽師 河村晴久（平成 17 年度文化交流使）

能楽師の立場から

能は六百年の長きにわたって演じ継がれてきた。はかない命の芸能がこれだけ続いたのは、将軍や大名、富裕層による制度的な支持があったとはいえ、基本的にはその芸がそれぞれの時代の人を引きつける魅力を持っていたからに他ならない。伝統芸能というとき、全てが変わらずに伝承されるように思われることも多いが、そうではなく、根底に脈々と続くものを持ちながら、刻々と姿を変えてきたのである。一つの所作は、長年の先人の工夫によって磨き上げられてきた。従ってこれを身につけるには長年の修練を要する。三十年、四十年修行して、やっと一人前になってゆく。しかし逆に考えれば、わずかな年月の修行で六百年分の技を身につけることができるのである。これが伝統であると私は考える。根底に続くものとはこれであり、表面に見えるものは、「今」の我々の感覚による芸である。能の主題は、親子の情愛、恋愛、危機に瀕したときの心の動きなど、人の心である。平安、鎌倉時代の文学作品を、中世人が劇に仕立てて、現代人が演じる。能の表現形式を使えば、心の問題が直接に観客に響きあい、古さを感じさせないし、また世界へ持ち出しても、感じていただけるはずである。もちろん、前提となる文化の理解は必要である。説明を尽くすことが重要となる。ただ、頭で判るのが全てではない。何かを感じていただいてこそ、能の意義があると考ええる。単に能を見て、日本の古いものが残っているとと思われるのではなく、日本人がどんな感性を持ち、どんな文化を育んできたか、心から感じていただける国際交流を行いたいと願っている。

文化庁文化交流使

- ・文化交流使を通じて得た文化交流の意義と課題

活動期間 平成 17 年 4 月 14 日から 5 月 27 日

活動地 アメリカ、カナダ

大学関係の講演、実演、授業

ハーバード大学、ブラウン大学、ダートマス大学、アーモスト大学、トロント大学、デアフィールドアカデミー

博物館調査、取り扱い法紹介

ボストン美術館、メトロポリタン美術館、フィラデルフィア美術館、ロードアイランド美術館

- ・ 十分な解説と実演による伝統芸能の実演者による紹介、気迫を込めた芸の直接伝達が可能。
- ・ 紹介に当たって、日本文化の相対的理解と現地聴衆の関心の把握が不可欠。
- ・ 一度だけの交流にならずに、継続による交流の深化が必要。そのためには今後の継続可能な施策を。また交流情報の共有を。

国際文化交流による芸術創造活動の向上

- ・ 国際文化交流を通じて我が国の芸術創造活動を一層発展させていくには、どのような国際文化交流が求められるか。その場合、国に期待される役割は何か。

- ・ 伝統芸能の場合、交流による芸術創造活動の発展は、長い目で見て考える必要がある。交流とはこちらの文化を提供すると共に、先方の文化を知ることであり、その結果広い視野を持つことができる。日本の中で考えるだけでなく、世界からの刺激を受けることにより、より一層、能に対する理解が深まり、今後の演能活動を活性化させるであろう。そういった意識を持った若い人材を育て、海外に派遣することにより、今後の伝統芸能を活性化させることができると考える。

日本文化の国際発信

- ・ 日本文化を国際発信していくに当たり、どのような課題があるか。
- ・ 日本文化を国際発信できる芸術家等をどのように育成していくべか。
- ・ 国際発信のためには、まず自身が日本文化を知り、伝達方法を知る必要がある。一般に伝統芸能の世界では、芸は体で覚えるものであり、無意識下で体から表現がなされる。芸の習得のためには絶対必要な条件であるが、紹介する以上は、それを言葉で表現することもできなければならない。
- ・ 外国語を習得し、自ら話すことが必要である。流暢に話せることは望ましいが、それよりも大切なことは、伝えたい内容を本人が理解し、それをやさしく話すことである。また、日本語を翻訳するのではなく、その地の人の言語感覚、思考感覚を知り、それにふさわしい話し方が重要である。
- ・ 当然のことながら、まず日本のことを知り、その上で交流地の文化を知ってはじめて交流が可能になる。単に演じるだけの紹介から、相互の文化にねざした交流へと発展させなければならない。
- ・ いささか飛躍するが、小学校、あるいは中学から高校、大学と続く一貫教育の学校を作り、日本文化の専門教育を行ってはいかがか。能、歌舞伎、文楽、花、茶、香の実技や日本史、古典文学を中心に学ぶと共に、外国語を習得し、外国の文化も幅広く学んで広い目で日本を見ることのできる人材を養成する。玄人の実技家になるもよく、また研究者や企画者になるもよい。真の国際人を育てる環境を作りたい。
- ・ 経済的な支援のためには、個人で行動する実技家への援助方法も検討願いたい。
- ・ 文化交流使は、とても意義のある制度と考える。今後一層の充実発展をお願いしたい。(情報の共有、支援体制の確立など)
- ・ 何はさておき、修練をはかり、本物の芸を紹介できるようにすることがこれがなくては話にならない。そのためにも、日本の伝統的な文化が立ち行くような施策をお願いしたい。
- ・ 能の世界でいえば、実演者の問題だけでなく、装束制作者、楽器制作者の世界など、危機的な状況となっている。併せて、今のうちに維持できる体制作りを検討願いたい。